



## 先月の山行

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ☆ 5月12日(日) 鷲走ヶ岳 | 山行報告参照 |
| ☆ 20日(日) 荒島岳    | 山行報告参照 |
| ☆ 27日(日) 鳴谷山    | 山行報告参照 |
| ◎ 3月25日(日) 藤原岳  | 山行報告参照 |
- 遅れをお許し下さい

## 6月の予定

- ☆ 10日(日) 能郷白山
- ★ 14日(木) 例会
- ☆ 24日(日) 白山釈迦 or3 の峰 6時間  
アツモリソウ  
CL

## 7月の予定

- ☆ 8日(日) 金草山と冠山 全5時間  
1227m, 1257m

CL

- ★ 11日(木) 例会
- ☆ 21日(土) ~ 鳳凰三山南アルプス

CL

## 山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください

山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

検索し再確認して下さい。

## 山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

## 〔山行報告〕

鷲走ヶ岳 (1096.8m)

日時 2018年5月12日(土)



朝6時に北陸自動車道福井インター近くのカネキ運輸の駐車場で参加者7名が集合。小泉さんのワゴン車に同乗させていただき、6時10分頃出発。中部縦貫道で勝山インターで下りて、恐竜博物館横を通過して国道157号に入る。

北谷でトイレ休憩した後、白山市白峰を経て、鴫ヶ谷大橋を渡って、すぐのトンネル手前左手にある狭い作業道に入る。付近は今が盛りと藤の花が満開だ。

作業道の広場に車を止め、5分程作業道を上がり、終点から山道に取り付く。作業道終点には、車が一台置いてある。「山菜採りだろうか？」と話しながら、山道を進む。山道は、通行量が少ないのか、あまり手入れがされていない。倒木や小柴が多く、少し鉋で切り払いながら歩く。

宮本さんが「これは何の花かな？」と言うので、花に目をやるとラショウモンカズラの花だった。道下にトチノキの大木を見ながら、しばらく進むと、足場の悪い急な斜面にかかる。「ここには昨年とても綺麗なヒトリシズカが咲いていたのだが！」と思いながら、付近を見渡すと、既に花が終わっているものを見つける。

急な斜面には、ロープが取り付けられているので、ロープにつかまり上り切る。谷沿いに進み、小さな沢

を横切り、しばらく進むと、林道に出る。林道を進むと、右手の法面下にヒメコマツの幼木が数本ある。しばらく進むと、右手にスギの木と並んで、ヒメコマツの大木があったので、写真に収める。

今年は、昨年（5月7日）やってきた時より遅いのと、雪解けが早いこともあり、昨年よりたくさんの花が見ることができる。キンキマメザクラは、ピンク色があせて、白っぽくなっている。岩本さんもこの花にカメラを向ける。

次に花が棒状に着くウワミズザクラの白い花がある。「この実は、果実酒にします」と話す。トチノキの新芽が出て、軸が立ち上がり、葉が展開する寸前のものがある。この状態のものは、あまり見る機会がなかったので、カメラに収める。「トチノキの新芽は、粘着性があり、光っています」と特徴を離す。次にミヤマガマズミの白い花が房状に咲いている。

しばらく進むと、右手に地層が幾重にも重なった状況が見られる法面の箇所には差し掛かる。「これは、昔、堆積した地層が隆起したものでしょうね！」とみんなで自然のスケールの大きさを実感した。恐竜の化石やシダ類の化石が見つかる手取層は、大昔、日本が大陸と陸続きだったとされ、手取湖があったとも言われる。今では、山の上に玉砂利があるなど、その地層が現れている。

途中、コシアブラ、タラノキの芽、ウド、クサソテツ（クグミ）、フキノトウの山の恵みを摘み取りながら、西岸さんの山小屋を目指す。小松に住んでいる西岸さんに携帯で電話すると、「今、そちらにむかっているところです！」とのこと。「それじゃ。山小屋で逢いましょう！」と会話をする。

広いスギ林にかかる。この辺は、間伐のための作業道があらこちらに新設されている。昨年より明るい林になっている。林の中には、残雪が未だ残っている。このスギ林の上方に西岸さんの小屋がある。「もうじき小屋に着きますよ！」と声を掛ける。

小屋には、9時10分に到着。今回は、早く帰らなければならなかったのだが、まだ、鷲走ヶ岳まで行けるので、宮本さんが、「まだ、時間も十分あるので、鷲走ヶ岳まで行きましょう！」と言われたので、「ここまで来たのだから鷲走ヶ岳に行きたい」と思っていたので、願いが叶う。

リュックと採取した山菜を小屋の横に置き、今度は、鷲走ヶ岳を目指す。見晴らしの良い場所では、小松市側の山なみが新緑で美しい。雪がたくさん残る場所を過ぎると、右手に鷲走ヶ岳への登山道が見える。9時55分頃登山口着。

「これから、30分くらいかかるかな！」と宮本さんが言うので、「20分もあれば着くんじゃないですか？」と返す。登山道付近からは、山頂横に立つ北陸電力の反射板が見える。

天然の大きなスギが所々にあり、途中、小松ドームが見える箇所では展望を楽しむ。更に進み、足元にはイワウチワ（日本海側はトクワカソウ）の薄いピンクの可愛い花が咲き、真っ白なタムシバの花がバックの青空に映えている。登山道には、ほとんど雪はなかったが、最後の急な登りの手前の緩斜面には、雪がたくさん残っている。この辺りに、コシアブラの倒木があり、新芽をたくさんつけていたので、岩本夫妻、津田さんが採取する。最後の急な登りを上がり切ると、マイクロウェーブ反射板に辿り着き、すぐに山頂に着く。山頂には、10時10分に到着する。

昨年は、ここで金沢から来た方が、一人でビールを飲み、景色を満喫していたことを思い出す。今回も正面に大笠山、右手に白山、赤兎山方面、左手に奈良岳が谷筋に雪を残し、綺麗な景色を見せてくれる。ここで、伴藤カメラマンの提案で記念撮影となる。

この眺めを見るのが楽しみでやってきたので、これで満足した。今回は、小泉さんは足をくじいていて、林道からの登山道は、登らないことになり、林道で待っていただくことになる。しばらく山頂からの景色を満喫して、9時20分頃には下山開始。10分くらいで林道に出る。

ここで、小泉さんは先に下山開始。残りの参加者は、山菜取りをしながら小屋を目指す。ヤナギやサンカヨウの花の写真を撮り、最初の林道分岐点手前で、アザミの軸を収穫する。林道分岐点を右に折れ、しばらく進むと、岩本さんの奥さんと津田さんが登りがけに宮本さんが「これは太いから採るのは無理だ」と諦めたコシアブラの木に挑んでいる。何とか採取できたようだ。ここで、お先に失礼して先に進む。

次の林道分岐点を左に折れるとカーブ曲がると、すぐに西岸さんの小屋が見えてくる。宮本さん達が先に荷を下ろして休んでいる。みんなが揃ったところで、伴藤コック長の采配が始まる。「今日は素麺です」とのことで、リュックから鍋や携帯コントなどを取り出し、素麺をゆでる準備にかかる。

私も登山口で預かった素麺つゆをリュックから取り出し、伴藤さんに渡す。西口さんの小屋の前には、冷たい伏流水があるので、素麺を食べるにはもってこいの所だ。「ここで、流し素麺やるといいよね！」「この水おいしいね！」の声が出る。

素麺をゆでている間、西岸さんに携帯で電話をする。「林道の途中で雪がたくさんあって、小屋までいけませんでした」とのこと。「お逢い出来るのを楽しみにしていたのに残念です。また、今度お逢いしましょう！今からここで素麺を食べます。」と伝えて、電話を切る。奥さんとは逢ってなかったので、残念だったが仕方がない。

手際よく素麺が茹で上がったところで、伴藤さんが「鍋もって水のところで冷やしてちょうだい」と津田さん、岩本さんをお願いします。おいしそうな素麺が出来上がる。伴藤さんにお椀と箸をいただき、冷たい水に麺つゆを注ぎ、チューブのわさびを少し入れ、素麺を食する。



日当たりのいい暖かな日差しの中での素麺は、格別に旨い。しっかり素麺を食べ、持参のお弁当もおにぎり1個とおかずだけ食べて、おにぎり2個は残すことになる。

昼食を終えると後片付けを済ませて12時頃小屋を後にする。小泉さんは、先行して下山する。残り6人でゆっくり新緑を楽しみながら下山。

調子よく、話をしながら賑やかに下山していたら、宮本さんが「行き過ぎたんじゃないか？」と言う。「そういえば、路面が悪いし、こんな所歩いて上がってない」と思う。すぐ、地図で確かめて、林道を引き返し、下山する歩道入口を探す。

「こんな所では、歩道の入口がわかりにくい。登った時に何か標示をしておかないといけない」と思う。朝出会った男の人も道を間違えたようで、引き返してくる。私たちより先まで下りていたのだろう。

最後の山道を15分くらい下り、作業道終点に到着。ブナ林の中を通過して、13時5分頃に小泉さんが待つ車の所に無事到着する。最後に思いがけないアクシデントがあったが、楽しい一日だった。運転をしていただいた小泉さん有難うございました。



## 福井労山 50 周年記念登山「荒島岳」

日時：2018年5月20日



前日の記念講演に続いて、今日は日本勤労者山岳連盟の川嶋事務局長との荒島岳記念登山です。しかしながら昨日の親睦会で飲み過ぎたのか、体調は良くありません。

午前8時に旧勝原スキー場の駐車場に集合。さすがに遅刻者はいません。役員や川嶋氏の挨拶の後、勝原登山口に向かって出発、スキー場ゲレンデ跡を登ります。皆ここが一番嫌いなのか我慢しているのが分かります。おまけに今日は暑くてすぐに汗が噴き出ます。およそ30分強で勝原登山口到着し、一息つきます。ここから登山道ですが、昨日の雨で道が泥で濡れているため滑ります。でもブナ林の新緑のマイナスイオンに癒されます。1時間後トトロの木に到着します。さらに白山展望台では雪を被った白山に出会います。今日は空気が澄んでいて眺望が期待されます。

ブナ林の急な登山道を進むとシャクナゲ平、ここでベルクラの6人に一度追いつきます。ここからは白山連峰や加越国境の山々がくっきり見えます。

一旦下って沼地のそばに行くと、雪解けが最近だったのかサンカヨウが白い花を咲かせています。続いて難所? 「もちが壁」です。川嶋氏が「いよいよあの有名なところですね」と言って興奮気味です。足の置き場を確認しながら、一步一步足を大きく上げながら進むと、目の前にシャクナゲが咲いています。荒島岳には何回も来ていますが、満開の姿を見た記憶がありません。早速シャクナゲと白山に狙いを定め、ツーショット姿をカメラに収めます。

もちが壁を過ぎ尾根に出るとカタクリ、コイワカガミ、イワナシ、イワウチワが咲いています。前荒島への急登で二十数人の団体さんが道を塞いでいます。東京から旅行社の応募で来たそうで昨夜は「平成の湯」に泊まったとのこと。ご苦労様です。

中荒島で追い越し、いよいよ荒島岳頂上です。今日は

風がなく、遠く北アルプスの槍・穂高連峰、乗鞍、御嶽が目視できました。頂上の標柱のところ、あしハイキング、山遊会、ベルクラ総勢 18 名で記念写真を撮りました。

帰りはぬかるみの滑りに注意しながら、千鳥足です。リフト跡地で小荒島岳に行った山遊会の 4 人に追いつき、一緒に下りました。上り 2 時間 40 分下り 2 時間の山行でした。



## 鳴谷山 (1597m) 山行報告

あしハイキング定例登山

日時：2018 年 5 月 27 日 (日)



鳴谷山の登山口駐車場への林道は大嵐山分岐からが荒れています。凸凹道を予想し、4WD の車 2 台で行きました。車を左右に揺らしながら駐車場に到着すると、既に 10 台以上の車が止まっています。でも駐車できてラッキーです。

身支度を整え、出発します。先ずブナやナラの林の中を行きますが、泥道で靴底が酷く汚れます。右手に滝の音を聞きながら進むと、湿地帯に大きなミズバショウがあります。でも白い花〈学術的には「萼 (ガク)」

というらしい〉は見えません。

倒木を跨いだり、小さな丸太橋を渡ったりすると峠です。さわやかな心地よい風がきます。いったん下るとシャクナゲがまだ咲いていて癒されます。

さらに進むと目の前に「鎧壁」が現われました。巨大な一枚岩で太古に海からせりあがってできた岩です。以前に来たときは鎧壁の下に残雪があり、こわごわトラバースした記憶があります。左手は切れていて落ちれば大怪我でしょう。

鎧壁を過ぎるといい匂いがしてきます。ミズバショウ、リュウキンカの群落が雪解け水の泥田に咲き乱れています。写真撮影の始まりです。下から構えると良い写真が撮れそうです。でもあまりしゃがみ過ぎるとズボンが汚れます乱舞のミズバショウ、リュウキンカは花の美しさをお互い競い合っているように見えます。砂御前分岐を過ぎると、いろいろな形の雪で曲がった杉の大木、サンカンスギがあります。

ここから頂上までが長い道程です。タムシバ、ムシカリ、マイズルソウ、イワウチワ、イワナシ、ミツババイカオウレン等を見ながら頑張ります。

目の前に大きな山容が現われました。大長山が経ヶ岳と赤兎山を従えています。さらに行く白山に会うことができました。福井からの景色とはまるで違います。大汝峰は丸くたおやかですが、御前峰が三角形で主峰らしくありません。別山は尾根が長く縦走路が想像できます。三ノ峰は三つのピークの山に見えます。左方に目をやれば笈ヶ岳や大笠山が見え、全く見飽きない展望です。

登山道脇で採ってきたコシアブラを鍋に入れて水餃子をおいしくいただきました。ごちそうさまでした。鳴谷山の三角点を藪の中へ探しに行きましたが見当たらず諦めました。

下りは転ばないように慎重に進みます。上りの風景とは違うさまです。今回の目的の花、イチヨウランを目を凝らして探します。ありました。やっと見つけたので興奮しました。小さいのでピント合わせが難しく、良い写真になればと思います。

上り 2 時間半、下り 2 時間 10 分の山行でした。



## 藤原岳 (1140m)

日時 ; 2018年3月25日 (日)



今日の山行は花の百名山「藤原岳」のフクジュソウがお目当てである。関ヶ原ICを経由して、いなべ市西藤原小学校前の駐車場にAM7時前に到着する。車道を10分ほど歩くと大貝戸登山口に、案の定この無料駐車場はすでに満車である。

登山届を提出後、鳥居をくぐって登山の始まりである。植林された九十九折の道を黙々と進む。登り一辺倒のため汗が滲み出る。杉林に遮られ見晴らしは良くないが、一合目毎に設けられた標識に勇気をもらえる。林の中の下草は鹿にきれいに食べ尽くされ、どこを歩いても登山道のように迷いそうである。目を凝らして先を進むと、バイケソウの新芽があり、春の息吹を感じる。

しばらく行くと、下りに利用する聖宝寺コースとの分岐、8合目に到着する。少し休憩してからさらに進むと、雪解けの泥道の始まりと同時に、お目当てのフクジュソウのかわいい花があちこちに現れた。足を止めて各自写真撮影の始まりである。こっちで「私がきれい」、あっちで「私の方がきれいだよ」と言っているようで何度もシャッターを切った。特に9合目付近はまるで誰かが植えた花壇のような群落であった。何度も何度も立ち止まり、前にはなかなか進めなかった。藤原山荘に着くと多くの登山者が休んでいた。ここにザックをデポして皆で藤原岳展望台に向かうことにする。いったん下って庭園のような稜線を上るが、展望は春霞のためかはっきりしない。風が強いため早々に集合写真を撮り、山荘に戻ることにする。山荘内に入り、今日の昼食の野菜入りラーメンを作って頂いた。ご馳走様でした。

お腹がふくれたところで今度は天狗岩に向けて出発する。鈴鹿山系独特の岩を見ながら到着する。ここでも春霞で眺望はいまいちだ。足元を見ると岩間にフク

ジュソウが寒そうに咲いているのが印象的だった。藤原山荘に戻る途中、今度は小さな可憐な花、セツブンソウを見つけることができ、感動した。下りは8合目から聖宝寺コースを選択する。このコースは谷沿いの道で傾斜があり、一步間違えれば危険である。道が崩れているところもあり、地元の人が整備していた。より慎重に下り、えん堤までは気が抜けなかった。このコースにあるという花、ミノコバイモはどうとう見つけることができなかった。残念である。えん堤を超え、聖宝寺、鳴谷神社の古い狛猿などを見て無事駐車場に着く。今日の山行は上りも下りも急で足にきたが、目的の花を見ることができて良かった。



日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>

[spvd9w29@ivy.ocn.ne.jp](mailto:spvd9w29@ivy.ocn.ne.jp) に送信ください。

畑中義和